

図書館のサポート力アップにつなげよう ～レファレンス記録の活用～

大阪女学院図書館
坂本恭子



レファレンス記録を

図書館サービスへフィードバック

大阪女学院図書館の概要

(資料2)



図書館サービスの変遷

- 1960年 ～ 1990年はじめ
資料提供(図書)
- 1990年代 ～ 2000年はじめ
資料(図書)+デジタル情報の提供
- 今後～
人的支援の提供(資料+デジタル情報+
人的支援)

千葉商科大学短期大学部 齊藤誠一

レファレンスサービスの実施状況現状

1975年 国立 74.2% 公立 48.1% 私立 52.5%

1995年 国立 88.6% 公立 84.5% 私立 86.2%

2006年 国立 93.8% 公立 77.7% 私立 73.8%

2008年 国立 92.8% 公立 73.2% 私立 74.2%

(文部科学省学術基盤調査)

大阪女学院図書館

～レファレンスサービスの概要～

1. 学生のレファレンスサービスの周知度
2. レファレンス体制
 - 情報源の整備
 - 記録のとり方
 - 記録用紙（資料 4、5、6）
3. 質問数と質問のタイプ

レファレンスの記録の使いかた 1

- A. 図書館員サポート力アップ
館内での情報共有
- B. 類似の質問の回答に利用
- C. 利用者への追加情報

レファレンスの記録の使いかた 2

D. 図書館サービスの改善

蔵書構築

サインなどの見直し

パスファインダーなどの作成

FAQの作成

OPACの改良

E. 学生の動向を知る

F. 図書館評価に利用

記録に必要なもの

- 質問内容
- 属性
- 利用目的
- 事前調査
- 回答様式
- 回答過程
- キーワード
- 回答
- 利用した資料

レファレンス記録の必要性

1. 館内での情報共有
2. 図書館サービスの改善
3. 図書館の評価
4. その他

これからの記録の活用方法

- 他館との共有
- 図書館の評価・PRに
- 知識・経験の共有